

まほらいな市民大学の様子

令和3年4月9日（金） まほらいな市民大学講座

JICA 国際協力出前講座

『コスタリカ共和国派遣での体験から』

講師 元青年海外協力隊 白井 瑞穂 氏

白井瑞穂氏はコスタリカの民族衣装を着用し、きれいなコスタリカの写真を見せながら、「コスタリカは海岸という意味で、豊かな大地、豊かな自然、豊かな動物が特徴です。」さらにクイズ形式で、面積は四国と九州を合わせたぐらい、人口は約500万人、300種の鳥や珍しい動物が見られるといった国の紹介がありました。「軍事費を教育と医療へ投資する」といった政策や、「家族や友人が何より大切」、「今を楽し



める心のゆとりと自国を愛する心・自信・誇りがある」、『プラビダ（「純粋な人生」「いいね」「最高」「ありがとう」「大丈夫」といったとポジティブな意味）』が合言葉であるゆるい場面で使われている、といったコスタリカの国民性についても触れ、今の日本と比べてみるとどうかといった話がありました。コスタリカから医療機器・電子部品・パイナップル・コーヒーなどを輸入するなど、日本とコスタリカはつながりがあり、日本語の教師として現地の大学生120名を教える中で、大学生の日本に対する関心がとても高いことがわかったという話がありました。

また白井氏は帰国後、松川町でコスタリカのホストタウン交流事業の推進を行い、スポーツ・文化の交流や、高校生のスタディツアーを実施したことなどの紹介がありました。コスタリカ人のフェルナンデスさんのビデオでは、とても上手な日本語で「松川町や伊那市の人たちは、笑顔でやさしく話しかけてきてくれる」といった話もありました。

「ホストタウンはきっかけづくりであり、知らない世界にふれる（多角的視点）、身近な外国人に興味を持つ、在日外国人の増加に対応して将来の可能性が拡大する。」といった良さの話がありました。

学生からは、「とても楽しい講演で、コスタリカのことがよくわかった。」「コスタリカにぜひ一度は行ってみたい。」「白井先生のアクティブな活動に感動し、応援したいと思った。」といった感想がありました。